



## 日韓親善会議に思う

日韓親善連絡委員会委員長 千 宗室

この度開催された日韓親善会議は、R I 会長より突然にご指示され、その準備期間も短時間である上開催地もソウルと指名されたため、韓国側に随分ご迷惑をかけることとなりましたが、幸い両国側の実行委員会がC・K・オー親善委員長の采配のもとに、心を一つにして準備その他にとりかかることができたのです。その結果誠に素晴らしい内容をもった親善会議にふさわしいものとなり、今後の両国間の心と心との結びつきは、より強い信頼と友情とによって、支えられていくことになると信じています。とはいえ、両国間に残されている親善以外の諸問題をスムーズに解決していくには、こうした会議、たとえ小規模で

も、善意のある人同士で幾度も開催していく必要があると思います。現在は日本語を理解してくれる韓国人が多くあっても、これから先、将来果たして、日本語をどれ程理解してくれるであろうかと思うと、日本サイドにおいて、もっともっと韓国語を中心に、韓国の実状を認識する機会をつくっていくように、私達が努力しないと、親善といっても画餅に過ぎぬものになってしまうことを恐れます。次の世代を背負う若い世代の真実の交流を私達がどしどしつくるのが、第一の課題でありましょう。そして話し合える場を広げていくことをしなければなりません。

(京都・バスターガバナー)